

令和5年度第1回美浦村定例教育委員会議事録

- 開会日時 令和5年4月25日(火) 午前9時30分
- 閉会日時 令和5年4月25日(火) 午前10時30分
- 開会場所 美浦村役場 3階 委員会室
- 出席委員等
 - 教育長 山崎 満男
 - 教育長職務代理人 小松 正樹
 - 委員 田組 順和
 - 委員 浅野 千晶
 - 委員 石橋 慎也
- 出席事務局職員
 - 教育部長 小山 久登
 - 学校教育課長 松葉 時男
 - 指導室長 若林 功
 - 子育て支援課長 福田 浩子
 - 生涯学習課長 石川 大志
 - 美浦幼稚園長 矢崎 和子
 - 大谷保育所長 広瀬 良子
 - 木原保育所長 鈴木 玉恵
- 欠席委員 なし
- 傍聴人 0人
- 提出議案及び議決結果

案 件		審議結果
議案第1号	美浦村立美浦幼稚園運営規程の一部を改正する規程	可決
議案第2号	美浦村立大谷保育所運営規程の一部を改正する規程	可決
議案第3号	美浦村立木原保育所運営規程の一部を改正する規程	可決
協議第1号	令和5年度美浦村一般会計補正予算に係る意見聴取について	—
報告第1号	教育長職務代理人の指名について	—
報告第2号	美浦村学校教育指導方針について	—
報告第3号	美浦村特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	—
報告第4号	美浦村特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例の一部を改正する条例	—
報告第5号	美浦村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	—
報告第6号	美浦村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	—

○教育長

ただいまより、令和5年度第1回定例教育委員会を開会いたします。本日の会議は、全員御出席をいただいております。教育委員会会議規則第17条第2項により、議事録署名委員を指名いたします。小松教育長職務代理人、お願いいたします。

【議案第1号 美浦村立美浦幼稚園運営規程の一部を改正する規程】

【美浦幼稚園長 説明】

【質疑】

○浅野委員

教諭の人数の減少というのは、子どもの数の減少ということなんでしょうか。

○美浦幼稚園長

今まで園長を含む全教諭の人数を提示しておりましたが、園務分掌ごとに人数を分けたため、園長1人、教頭1人、主任1人、教諭5人として、今回の改正内容となりました。

【議案第1号 原案どおり可決】

【議案第2号 美浦村立大谷保育所運営規程の一部を改正する規程】

【大谷保育所長 説明】

【質疑なし】

【議案第2号 原案どおり可決】

【議案第3号 美浦村立木原保育所運営規程の一部を改正する規程】

【木原保育所長 説明】

【質疑】

○田組委員

先ほど、浅野委員からも人数について質問があったかと思うんですが、この人数というのは毎年子どもの人数によって変わるものなんですか。もう1点は、保育所とか幼稚園に入れれないという待機児童が話題になっているかと思うんですけど、そういうお子さんがいらっしゃるのか、いらっしゃらないのかっていうことも、もし分かれば教えていただければと思います。

○木原保育所長

職員の人数については、今年度、木原保育所は幼児の入所希望人数に合わせた保育士を確保し、12人から14人に改正ということになっております。待機児童については、4月の時点では待機児童なしで入所ができております。大谷保育所も待機児童なしで入所できております。今後については、随時入所希望者が出てくるんですけども、毎月、利用調整会議というものを行いまして、このときに保育士の人数が確保されれば入所可能ということになります。0歳児は保育士1人で3名、1歳児2歳児は保育士1人で6名、3歳児は保育士1人で20名、4歳児は保育士1人で30名、5歳児も30名という配置基準が決まっておりますが、入所希望者はやはり0歳1歳2歳児のお子さんが多く、保育士の人数が確保できない場合に待機児童が出てしまっております。昨年も、大谷保育所木原保育所で0歳児の待機児童が数名出ている状況でした。

【議案第3号 原案どおり可決】

【協議第1号 令和5年度美浦村一般会計補正予算に係る意見聴取について】

【子育て支援課長 説明】

【質疑 なし】

【報告第1号 教育長職務代理者の指名について】

【学校教育課長 説明】

【質疑 なし】

【報告第2号 美浦村学校教育指導方針について】

【指導室長 説明】

【質疑】

○浅野委員

「0歳から90歳までの社会力育て」というキャッチフレーズなんですけど、これについてはかなり年数がたっておりまして、最初の頃はとても斬新な感じがしたんですけども、今は90歳以上でも元気な方もたくさんいらっしゃいますし、国でも「人生100年時代」と言っているのでも私は違和感を覚えました。来年度つくられるときに、検討していただけたらと思います。私の意見ですけれども、「0歳からの社会力育て」だけでも十分意図は伝わるように思います。検討していただけたらと思います。

○指導室

その視点をしっかりと大切にして、今年度終わりに振り返りをし、次年度に向けて新しいものがつくれるようにしていきたいと思っております。

○教育部長

ただいまのご意見に補足で申し上げます。「0歳から90歳までの社会力育て」につきましては、現行の教育振興基本計画における平成26年度から本年度までのスローガンでございます。新たな第2期の教育振興基本計画を来年度から実施できるように、今年度計画の策定を行ってまいりますので、令和5年度末には新たな基本計画を策定しております。それに基づきまして、来年度の学校教育指導方針も新たなキャッチコピーで検討することとなりますのでよろしくお願いいたします。

【報告第3号 美浦村特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例】

【報告第4号 美浦村特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担に関する条例の一部を改正する条例】

【報告第5号 美浦村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例】

【報告第6号 美浦村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例】

【子育て支援課長 説明】

【質疑】

○小松教育長職務代理者

特定地域型保育事業っていうのを私も初めて耳にしたもので教えていただきたい。小規模保育に関しては0歳から2歳の子どもたちが対象で、美浦村では今、該当している施設がないということですね。それと、そのほかに家庭的保育だとか、居宅訪問型保育だとか、事業所内保育だとかっていうふうに細かくいくつかに分かれているようなんですけども、これらというのは全部別のものなんですか。その辺りがどんな形でやっているのかなっていうのが分かりづらかったものですから、初歩的な質問で申し訳ないんですけども、教えていただければと思います。

○子育て支援課長

特定地域型保育事業とはどういったものかというご質問かと思うんですが、こちらは保育所より少人数の単位で、0歳から2歳の子どもを保育する事業が4種類ございます。その一つが、家庭的保育事業と言われるもので、こちらは定員が5人以下となります。それから、小規模保育というものがありまして、こちらは定員が6人から19人、また、事業所内保育というものもございまして、会社の事業の保育施設などで従業員の子どもと地域の子どもの一緒に保育するというものです。それから居宅訪問型保育というのは、障害や疾患などの個別ケアが必要な場合、自宅に訪問して一対一で保育を行うもので、そういうものをまとめて地域型保育事業と呼んでおります。今のところ美浦村では、実施している施設はございません。

【その他1 美浦村社会教育委員及び美浦村公民館運営審議会委員の委嘱について】

【生涯学習課長 説明】

【質疑なし】

【その他 高校への進学について】

○石橋委員

4月になって受験を終えて新生活が始まった子どもたちがいると思うんですが、様々な理由があると思うんですが、高校に進学しなかったお子さんって何名ぐらいいらっしゃるんでしょうか。併せて、毎年気になってはいたんですが、様々な事情があつて高校に行かない又は行けないっていう子どもたちがいらっしゃると思うんですが、その子どもたちのその後っていうのは教育委員会では何か対応をしているのでしょうか。

○指導室長

まず、高校進学に関しましては5月1日時点で調査が入りまして、そのあと詳細が分かることになっております。次回の教育委員会でご報告させていただければと存じます。もう1点に関しまして、学校では家庭訪問等を通して情報の収集はしているかと思いますが、教育委員会として確認しているかというのは、次回までにお答えできるように準備したいと思います。

【その他 美浦中学校の部活動の在り方検討委員会について】

○浅野委員

前年度の3月に中学校の部活動の在り方検討委員会に係る案件がありまして、そのときにも質問させていただいたんですが、メンバーが入れかわりましたので、重複になりますが意見を言わせていただきたいと思います。在り方検討委員会のメンバーを拝見して、文化系の部活を担当するような方が、吹奏楽だけなのが疑問だったんですが、たまたま見た朝日新聞の投稿欄で、茨城県の高校生が和太鼓の部活動で自分がとても変わったっていうような投書があつたんですね。そのときも申し上げたんですが、今現在の美浦中の部活動を視点に考えるというよりは、今現在この美浦村で行われている活動から、逆に、部活というものを部活動の芽をつくっていくようなそういった考え方はいかがでしょうか。安中小で縄文太鼓をやっていますが、安中小だけではもうなかなかメンバーが集まらなくなっています。あるいは、陸平で活動している陸平ヨイショの会でいろいろイベントやりますと子どもさんがたくさん集まってきたりして、そういった地域活動を行うというのもあります。この投書にもあるんですが和太鼓を中心にして郷土芸能への興味ができたと。あるいは地域のイベントに参加して、地域のことに目を向けることが出来たということが書いてあります。

木原のおはやしですとか、そういった今行われているものを中学校の部活動的に継承していくような視点を考えていただけたらなと思うんですね。あるいはそのときに山崎教育長がおっしゃっていましたが、検討委員会の中に女性1人だったんですが、現在例えば美浦村でボランティア活動とかを熱心にやってる女性たくさんいらっしゃいますよね。ボランティアだって立派な活動になりますし、やはり地域の活動も、なかなかみんな高齢化が進んでその下の世代がないということで、このままでは途絶えてしまうと思うんです。例えば部活動の中にそういうものがあれば、中学生からそういったことに興味を持っていただいて、それを継承していくような種まきみたいなことにもなると思うんですね。食生活改善の活動もとても長い間やってらっしゃって、例えばそういった調理系の部活動でも、とても活躍されてる調理家の方で、もしかしたら高校生だったかもしれないんですけども、部活で調理をやれてよかったっていうような話を聞いたことがあります。あと木原小のキッズカンパニーも学校の授業の教育としてやっていらっしゃいますけれども、それで育ったお子さんが中学生、高校生になって、例えばそういうことで集まって何かしたいとか、そういうことだっていいんじゃないかなということいろいろ考えまして、できるだけ今ある固定観念から外れた考え方で、部活の種みたくのをつくっていただけたら、地域でそれを協力する方とかも拾いやすいのではないかなということをおもひまして、ちょっと重複になりますけど意見を述べさせていただきました。よろしくお願ひいたします。

○生涯学習課長

私も4月に前任から、この部活動の在り方検討委員会について引継ぎをしたんですが、非常に難しい話だというのが印象で、本当に小手先で進めていけるような話ではないなと思って、私自身もすごく頭を悩ませているところでございます。委員の構成につきましては、これから村の方針をしっかりと関係者と整理して、調整して、構成メンバーも検討していきたいなと思うんですが、すでに3月の在り方検討委員会で委嘱していますので、当面はこのメンバーでいくという考えでございます。あと、既存の部活動にとらわれずということなんですけれど、全くそのとおりでございます。美浦村の特色ある文化活動とか、そういったものを新たに部活動というか、中学校の生徒が、特色ある縄文太鼓とかそういうものに参加できるような、そういう形がふさわしいのかなといったイメージをしております。いずれにしましても、しっかり庁内で方向性を示しながら、在り方検討委員会、教育委員会の委員の皆様と協議しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○浅野委員

今、始まった検討委員の方に異論があるわけじゃないんですけども、こういったメンバー決めるときにどうしても団体で会長というと、男性ばかりになっちゃうと思うんですね。何か決定する責任が発生するものであれば、やはり会長とかの立場が大切かもしれないんですけども、意見を収集するとか意見を交換するとかいうときであったら、会長でなくても、女性の方をどなたかお願ひしますとかそういったお願ひの仕方で委員さんの男女比をせめて6対4とか7対3ぐらいにはするとかそういったことも会議のつくり方として少し考えていただけたらなあというふうに思うんですけども、そういうことは難しいのでしょうか。

○教育部長

ただいま石川課長が申しあげましたように、在り方検討委員会につきましては、3月末に第1回を開いたばかりでございます。前提として、中学校部活動の休日の地域移行という考え方でスタートとなったものですから、すべて地域に任せるということではなく、現在は、週末の部活動を地域に移行しようということで国が始まったものでござい

まして、それに基づいて、村としても始まったものでございますが、まずは、現在中学校にある部活動についての受皿ということで、皆様にご意見をいただきたいと検討を始めてございます。委員がおっしゃるように、将来的には学校から独立したクラブ活動となると思いますので、その辺の多くの意見は当然、委員会で取り入れたいと思っております。ですから、委員という立場ではなくても、参考のご意見を伺うこととして、いろいろな方を招致して揉んでいくという形もございますので、その辺も含めて検討してまいりたいと思っております。

○浅野委員

まだ始まったばかりで、国でも手探りだと思うので、大変だと思うんですけども、将来的に部活動するかどうかもこれからの疑問になりますけれども、中学校の問題だけでなく地域の問題として進めていただけたらなと思いますので、よろしく願いいたします。

○教育部長

浅野委員がおっしゃいますように、最終的には地域が受皿となるというところが、大前提でありますので、その辺も含めまして検討してまいりたいと思っております。